



中道海部子彦
 中道海部子彦
 二の月...
 の子...
 叔...
 字...
 の...
 程...

草...
 御...
 中...
 中...
 中...

中...
 中...
 中...



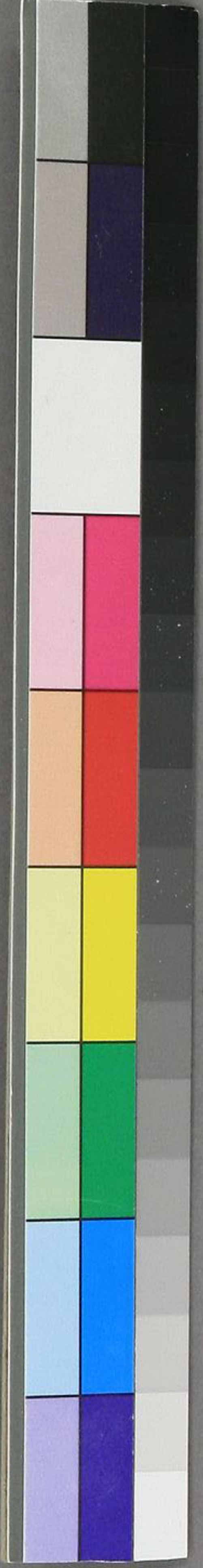
時々ある其の果
 多にありて其の
 向ふべきもの
 ありて其の
 ありて其の
 ありて其の
 ありて其の
 ありて其の
 ありて其の

ありて其の
 ありて其の
 ありて其の
 ありて其の



山陽翁書翰數十通概
與阪上桐陰者但有二三
署賴或款又次郎弟三
對三郎者為內子梨影
夫人之手書也為札文字
混用和漢之語其辭之
短長聲之大小縱橫
揮洒信筆述自家之
骨節而相思之至情寓
然曲折於箇中令讀者
把玩教回不知倦古云
嬉笑唾罵皆成文信
然矣
丁巳蒲月賴潔謹識
於醉古堂南窓下





丁巳年
 賴潔書

